

番 号 : 130785
国 名 : ウガンダ
担当部署 : 農村開発部乾燥畑作地帯第1課
案件名 : コメ振興プロジェクト (水稲 (ローランド))

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務 : 水稲 (ローランド)
- (2) 格 付 : 3号
- (3) 業務の種類 : 専門家業務

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間 : 2013年10月上旬から2014年12月下旬まで
- (2) 業務M/M : 国内 0.5M/M、現地 11.37M/M、合計 11.87M/M
- (3) 業務日数 :

準備期間	1次現地期間	国内作業	2次現地期間	国内作業	3次現地期間	整理期間
3日	77日	2日	138日	2日	126日	3日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、場所

- (1) 簡易プロポーザル提出部数 : 正1部、写4部
- (2) 見積書提出部数 : 正1部、写1部
- (3) 提出期限 : 8月28日(12時まで)
- (4) 提出場所 : 調達部受付 (JICA本部1F)

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針 :
 - 1) 業務方針の的確性 6点
 - 2) 業務方法の整合性、現実性等 12点
 - 3) 当該業務実施上のバックアップ体制 2点
 - (2) 業務従事者の経験能力等 :
 - 1) 類似業務^{注1)}の経験 28点
 - 2) 対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域^{注2)}での業務経験 8点
 - 3) 語学力^{注3)} 16点
 - 4) その他学位、資格等 12点
 - 5) 業務従事者によるプレゼンテーション 16点
- (計100点)

注1) 類似業務 : 稲作 (水稲) に係る各種業務

注2) 対象国/類似地域 : ウガンダ/全途上国

注3) 語学の種類 : 英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等 : 特になし
- (2) 必要予防接種 : あり
黄熱 : 入国に際してイエローカード (黄熱病予防接種証明書) が必要です。

6. 業務の背景

ウガンダの農業は、GDPの約20%、輸出の約48%、雇用の約73%を占める基幹産業である。農家の平均営農面積は1ha以下と小さく、小規模農家による自給自足的農業が中心である。他方、同国の自然条件は年平均気温20℃、年間降水量1,500~1,750mmと農業生産に適した環境にある。また、主食作物としてプランテン、サツマイモ、キャッサバ、メイズ、ソルガム等が多く栽培され、商品作物としてコーヒー、ゴマ、サトウキビ、茶等が栽培されている。

稲作に関して、湿地帯の多い東部地域では水稲作が以前から営まれてきたが、その他の地域では近年JICAの支援により陸稲であるネリカ米の普及が進められており生産量の伸びが著しい。この背景としてコメ需要の高まりがあり、他の食用作物(プランテーション、メイズ、キャッサバ等)と比べて調理が簡単で食味も良いことなどから、都市部を中心にコメの消費が拡大していることが挙げられる(一人当たりの消費量が8kg/年)。しかし現在のコメ生産量(16万トン)は消費量(22万トン)を大きく下回り、アジアからの輸入に多くを依存していることから、コメ生産量の増加が大きな課題となっている。

コメ生産が緒に就いたばかりのウガンダでは、コメ生産量増加には研究機関において稲作に関する適正技術が開発されるとともに、普及関係者を通じて稲作農家に普及される必要がある。その際、展開にあたっては、栽培方法の異なる3つのコメ栽培環境(天水丘地、天水低湿地、灌漑低地)におけるそれぞれの技術の開発と普及が重要となる。また、農家が稲作を継続していくためには、コメを売ることによる収益の確保が求められ、そのためには高品質・市場価値の高いコメを供給していくことが必要となっている。

このような状況を受け、ウガンダ政府はコメの生産性向上のための技術協力プロジェクトを我が国政府に要請した。この要請を受け、JICAは2011年11月から2016年10月までの5年間で、「コメ振興プロジェクト」(以下、プロジェクト)を実施している。

プロジェクトは、農業畜産水産省(Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries:MAAIF)をカウンターパート(C/P)機関とし、①3つの栽培環境(天水丘地、天水低湿地、灌漑低地)毎に拠点となる地域農業開発研究所(Zonal Agricultural Research and Development Institute: ZARDI)を選定の上、国立作物資源研究所(National Crops Resources Research Institute:NaCRRRI)とともに栽培技術を開発し(成果1)、②サービスプロバイダーや農民に対する研修を通じて栽培技術を普及するとともに(成果2)、併せて、③コメの品質が低いことが農民のコメ生産インセンティブの低下を招きコメ生産増大の制約要因となっている現状に鑑み、特に重要性が高い精米段階に対する支援を通じて質の改善にも取り組む(成果3)ことにより、コメ生産の増大を図るものである。これに取り組むため、現在、6名の長期専門家(チーフアドバイザー/農業機械、水管理、稲作技術アドバイザー、栽培(アップランド)、業務調整/農業研修、業務調整2/稲作普及)が派遣されている。

今般、JICAは、①～③の成果を達成するために、水稲に関する栽培技術の改善及びC/Pの指導を目的として、本専門家を派遣するものである。なお、2012年2月～2013年9月までの間には、「栽培(ローランド)」専門家を派遣しており、今回の業務は同専門家の活動を引き継ぐものとする。

7. 業務の内容

本コンサルタントは、プロジェクトの長期専門家及びC/Pと協働で、既にプロジェクトで実施中の稲作振興のための研究・普及の内、ローランドライスについて、これまでの活動内容、課題を整理し、我が国類似案件での経験・教訓、これまでの活動での実績及びC/Pとの意見交換を踏まえ、主として栽培技術がさらに向上されることを目的とする。

具体的な業務内容は以下のとおり。

(1) 国内準備期間 (2013年10月上旬)

- ア 既存・関連資料の収集・整理・分析を行い、本業務の実施に必要な情報を入手する。
- イ 第1次業務ワークプランを作成しJICA農村開発部へ提出・説明する。

(2) 第1次現地派遣期間 (2013年10月上旬～12月下旬)

- ア 現地業務の開始に当たり、C/P機関、チーフアドバイザー及びJICAウガンダ事務所に第1次ワークプランを提出し、業務計画の確認を行う。また適宜チーフアドバイザーとともに、JICAウガンダ事務所に対し担当分野の業務進捗報告を行う。
- イ ZARDI及びNaCRRRIの水稲栽培に係る研究開発能力を強化するため、栽培環境(天水丘地、天水低湿地、灌漑低地)毎の水稲栽培に関する一連の技術(種子増殖・選定、植付、育成、収穫、収穫後処理)を指導する。また、水稲技術開発のための各種の試験を実施し、試験・研究データを分析、報告書として取りまとめる。

- ウ 栽培環境(ローランド)に適合する稲作「技術パッケージ」及び普及教材の作成を支援する。
- エ 水稲品種の選定及び純化を行い、推奨される種子の増殖を支援する。
- オ 水稲品種選定にかかわる適合性試験を支援する。
- カ 試験研究の成果を普及させるため、C/Pとともにワークショップや研修を行い、またC/Pに対して助言・指導を行う。
- なお、ワークショップや研修には、青年海外協力隊員や近隣諸国からの参加も想定される。
- キ 第1次現地業務完了に際し、第1次現地業務結果報告書(英文)を作成し、C/P機関、チーフアドバイザー、JICAウガンダ事務所への提出及び報告を行う。
- (3) 国内作業 (2013年12月下旬～2014年1月下旬)
- ア 第1次現地業務結果報告書(英文)をJICA農村開発部に提出し、報告を行う。
- イ 第1次現地業務の結果を受けて、改善部分について第2次及び第3次派遣に関するワークプランを作成しJICA農村開発部へ提出・説明する。
- (4) 第2次現地派遣期間 (2014年2月上旬～6月下旬)
- ア 現地業務の開始にあたり、C/P機関、チーフアドバイザー及びJICAウガンダ事務所に第2次ワークプランを提出し、業務計画の確認を行う。また適宜チーフアドバイザーとともに、JICAウガンダ事務所に対し担当分野の業務に係る進捗報告を行う。
- イ 第1次と同様の業務を通じ、第1次の派遣結果により提案する改善点を含め、より踏み込んだ内容の助言・指導を行う。
- ウ C/P機関において、同機関の関係者に対し水稲技術に関するセミナーを開催する。
- エ 水稲栽培技術を幅広く普及するため、C/Pとともに外部技術者等に対して技術・知識の習得を目的としたワークショップや研修を行うとともに、C/Pに対して助言・指導を行う。なお、ワークショップや研修には、青年海外協力隊員や近隣諸国からの参加も想定される。
- オ 第2次現地業務完了に際し、第2次現地業務結果報告書(英文)を作成し、C/P機関、JICAウガンダ事務所への提出及び報告を行う。
- (5) 国内作業 (2014年6月下旬～2014年7月上旬)
- ア 第2次現地業務結果をJICA農村開発部に報告し、今後のローランド分野に関する支援内容について協議する。
- イ 前記協議の結果を受けて、第3次ワークプランに必要な修正を加え作成しJICA農村開発部へ提出・説明する。
- (6) 第3次現地派遣期間 (2014年7月下旬～11月下旬)
- ア 現地業務の開始にあたり、C/P機関、チーフアドバイザー及びJICAウガンダ事務所に(5)イで作成した第3次ワークプランを提出し、業務計画の確認を行う。また適宜チーフアドバイザーとともに、JICAウガンダ事務所に対し担当分野の業務に係る進捗報告を行う。
- イ 第1次、第2次と同様の業務を通じ、第2次の派遣結果により提案する改善点を含め、より踏み込んだ内容の助言・指導を行う。
- ウ C/P機関において、同機関の関係者に対し水稲技術に関するセミナーを開催する。
- エ 水稲栽培技術を幅広く普及するため、C/Pとともに外部技術者等に対して技術・知識の習得を目的としたワークショップや研修を行うとともに、C/Pに対して助言・指導を行う。なお、ワークショップや研修には、青年海外協力隊員や近隣諸国からの参加も想定される。
- オ 現地業務完了に際し、第3次現地業務結果報告書(英文)を作成し、C/P機関、JICAウガンダ事務所への提出及び報告を行う。
- (7) 帰国後整理期間 (2014年12月上旬)
- ア これまでの活動成果をまとめた専門家業務完了報告書(和文)を作成し、第3次現地業務結果報告書(英文)とともにJICA農村開発部へ提出及び報告を行う。なお、提出の際は、次期

に向けたさらなる改善提案も盛り込むこととする。

8. 成果品等

業務の実施過程で作成、提出する報告書等は以下のとおり。

なお、本契約における成果品は（3）専門家業務完了報告書とする。

- (1) ワークプラン（第1次、第2次、第3次）（英文4部：JICA農村開発部、JICAウガンダ事務所、プロジェクトチーム、C/P機関）
現地派遣期間中に実施する業務内容を関係者と共有するために作成。業務の具体的内容（案）などを記載。
- (2) 現地業務結果報告書（第1次、第2次、第3次）（英文4部：JICA農村開発部、JICAウガンダ事務所、プロジェクトチーム、C/P機関）
記載項目は以下のとおり。
 - 1) 業務の具体的内容
 - 2) 業務の達成状況
- (3) 専門家業務完了報告書（和文3部：JICA農村開発部、JICAウガンダ事務所、プロジェクトチーム）
記載項目は以下のとおり。体裁は簡易製本とし、電子データを併せて提出することとする。
 - 1) 業務の具体的内容
 - 2) 業務の達成状況
 - 3) 業務実施上遭遇した課題とその対処
 - 4) プロジェクト実施上での残された課題（各種研修教材の作成にかかわるもの）
 - 5) その他：研修等で作成したローランド稲作栽培に関するマニュアルや指導手引き等を参考資料として添付すること。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示にかかる見積書の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約見積書作成の手引き」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。

留意点は以下のとおり。

- (1) 航空賃及び日当・宿泊料等
航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含みます（見積書に計上して下さい）。
航空経路は、成田⇒ドーハ/ドバイ⇒エンテベ⇒ドーハ/ドバイ⇒成田を標準とします。

10. 特記事項

- (1) 業務日程／執務環境
 - 1) 現地業務日程
現地派遣期間は2013年10月上旬～2014年11月下旬の間に3回を予定していますが、ある程度の日程調整は可能です。
 - 2) 現地での業務体制
本業務に係る現地プロジェクトチームの構成は、以下のとおりです（本業務の現地作業期間に派遣されている専門家のみ記載しています）。
 - ・チーフアドバイザー／農業機械（長期派遣専門家）
 - ・水管理（長期派遣専門家）
 - ・稲作技術アドバイザー（長期派遣専門家）
 - ・栽培（アップランド）
 - ・業務調整／農業研修（長期派遣専門家）
 - ・業務調整2／稲作普及（長期派遣専門家）その他、短期専門家として、植物生理、植物病理、稲害虫対策、稲育苗等を派遣予定
 - 3) 便宜供与内容
プロジェクトチームによる便宜供与事項は以下のとおりです。

- ① 空港送迎
あり
- ② 宿舎手配
あり
- ③ 車両借上げ
必要な移動に係る車両の提供（市外地域への移動を含む。）
- ④ 通訳備上
なし
- ⑤ 現地日程のアレンジ
プロジェクトチームが必要に応じアレンジします。
- ⑥ 執務スペースの提供
教育省内プロジェクトオフィスにおける執務スペース提供（ネット環境完備）

（2）参考資料

- 1) 本業務に関する以下の資料をJICA農村開発部乾燥畑作地帯第一課（TEL:03-5226-8431）にて配布します。
 - ・ 前回派遣の「栽培（ローランド）」専門家による活動報告書
 - ・ プロジェクト半期報告書
- 2) 本業務に関する以下の資料がJICA図書館のウェブサイトで公開されています。
 - ・ プロジェクト概要（<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/001/outline/index.html>）
 - ・ プロジェクト基本情報（ナレッジサイトトップ>プロジェクト情報>スキーム別&国別一覧>プロジェクト基本情報）

（3）その他

- 1) 業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます（冒頭留意事項参照）。
- 2) 本件は、業務従事予定者によるプレゼンテーションを実施する予定です。
 - ア 実施時期：8月30日（金）（予定）（詳細な日時は、プロポーザル提出後、別途指示します。）
 - イ 実施場所：独立行政法人国際協力機構内会議室
 - ウ 実施方法：
 - (ア) 一者当たり最大、プレゼンテーション10分、質疑応答15分
 - (イ) プレゼンテーションは、業務従事予定者が業務実施方針、提案事項の説明を行う。
 - エ 出席者：業務従事予定者以外の出席を認めない。

以上